

## 【目次】

### 日本語版への序文——ズボンをめぐる女たちの闘い

#### 序論

ズボンの起源

「男性の大いなる放棄」

性の混同に対する恐怖

女性がズボンを穿く権利

物質文化の政治史

#### 第1章 サン＝キュロットのズボン

啓蒙主義のフランスにおける服装の政治化

市民のズボン

服装の自由と外見政策

キュロットまたはズボン？ テルミドールから第一帝政まで

#### 第2章 実現不可能な女性市民

軽薄な女、あるいはモードの差異主義的な罍

革命期のアマゾン族

「美の貴族制を放棄する」？

軍服を着た女性たち

「三色帽章の戦い」

服装に関する曖昧な結末

#### 第3章 男装の禁止（1800年）

革命暦九年ブリュメール十六日の警察条例

男性による異性装

祝祭での特例

異性装の許可証

髭の生えた女たちのズボン

警察の記録文書の欠落

#### 第4章 ズボンのユートピア

新たな服装規範とモード

女性サン＝シモン主義者のあり得ないズボン

ズボンのないイカリア

アメリカのユートピア

ブルーマーリズムとフリーダム・ドレス

#### 第5章 ブルーストッキング、ヴェズユヴィエンヌ、ヴィラゴの女たち

その起源にはキュロットをめぐる争いが……

そしてカーニバルという実践

ヴェズユヴィエンヌの神話化という欺瞞

女性クラブに対する弾圧

ドーミエあるいはコティヨンに侮辱されたズボン

女性戦闘員のズボン

女性たちのクーデター

## 第6章 自由という体験

ジョルジュ・サンド

ローザ・ボヌール

許されたズボン、その先の女たち

ズボンを正当化しうるもの

コレットと侯爵夫人—多彩な快樂

## 第7章 ベル・エポックの服装改革

フェミニズムのためのサイクリング・マニア

キュロットは合法か？

下着としてのズボン

仕事着としてのズボン

「新しい女」への糾弾

改革者ポワレ

## 第8章 「私のスーツは男に告げている。君とは平等だ、と」

衣服の男性化についての論争

マドレーヌ・ペルティエ、唯一無二のフェミニスト

政策としての女性の男性化

パリアの運命

「そうなれば、女性同性愛者だと非難されるでしょう」

男性的抗議

## 第9章 女性チャンピオンのズボン ヴィオレット・モリス

ズボン普及の仲介役としてのスポーツ

「ラ・モリス」、比類なき女性スター

法廷を前にしたズボンの権利

男性化の回避

判決とその帰結

## 第10章 ズボンの、抵抗し得る普及（1914年～1960年）

男性化をもたらす戦争？

ギャルソンヌの狂乱の時代

例外のままのズボン

女性のズボンの敵

ズボンのまぎれもない躍進

## 第11章 女性用ズボンの公認

オートクチュール、ズボンへの挑戦の時

六〇年代のモード

ユニセックスの隆盛

ネオフェミニズムと外見

文化大革命におけるユニセックス

## 第12章 「禁止することは禁じられている」

警察はどうするのか？

服装の自由の制限

法律で定められていること

数字でみるズボン

五月革命（一九六八年）以降の普段着としてのズボン

「就業女性たち」のズボン

女性政治家のズボン

ズボンを穿かない権利

## **結論**

装飾、羞恥心、保護

自由、平等、友愛

## **追記 ズボン禁止条例廃止の要求——奇抜なものから象徴的なものへ**

相次ぐ条例廃止の要求

これらの要求に対する反応

法的次元での解釈

象徴の力の見極め

## **訳者あとがき**

### **原註**

### **人名索引**